

# 元気なときからの備え

人には、寿命があり、いつかは死を迎えます。  
ほとんどの方は「死ぬ直前までは、健康で元気に暮らし、  
叶うことなら、ころっと死にたい」と願っておられます。  
いわゆる「ピンピンコロリ」願望です。



でも現実には、決してそうでない事が多いのです。  
リビングウイルや事前指示書は、病気のあるなしに関わ  
らず、いつかは理性的判断が出来なくなることがあることを想定し、自分自身の人生の終  
末期には、このようにして欲しいと希望を書いておくものです。  
自分で自分の意志を伝えられなくなった時、点滴や胃ろうや人工呼吸器などの人工手段で、  
無理やり生かされるのは嫌だと誰もが思っています。

では、そのような自分の意志を尊重してもらうには、どうしたら良いのでしょうか？

唯一確実な方法は、判断能力のある元気なうちに、リビングウイルを書き残しておくこと  
です。

医療側では、本人の意志が分からない時は、医学的に不要と思っても、点滴や胃ろうや人  
工呼吸器などを使わざるを得ない事が多いのです。

リビングウイル・事前指示書とは・・・自分の最期が近い時の医療やケアについて、自分  
がしてほしい、あるいはして欲しくない医療・ケ  
アについての自分の意志、事前指示書は意思表示  
できなくなった時のリビングウイルの代理人・代  
弁者を決定しておくこと。

ACP(アドバンスケアプランニング)とは・・・リビングウイルや事前指示書に関して入院  
あるいは入所の度毎に医療や介護に関して  
話し合う事。

